【学校教育目標】「心豊かに　かしこく　たくましく生きる子どもの育成」
【学校教育重点目標】「気づき　考え　みんなで創り出す　～子ども主体の学びの文化・くらしの文化の創造～　」
【めざす学校像・教師像】「安心して学べる学校」「信頼される学校」「よさが発揮できる学校」「笑顔で協働できる教職員」「信頼関係を築き，温かい人間関係を育む教職員」「学び続ける教職員・積極的な研修参加」「自立した教職員」

評価計画					自己評価						学校関係者評価（学校運営協議会）	
中期経営目標	短期経営目標	達成のための方策	評価指標	目標値%	職員%	児童%	保護者%	評価	結果と課題の説明 《評価》A:(十分達成した) B:(おおむねできたが今後も改善が必要) C:(改善が必要) 〇成果 △課題	コメント	改善策
（気づき） 自分で問いを立てる力の育成	学ぶための素材や方法を見つける	①・児童の多様な「気づき」を引き出すしかけの工夫（単元や学習課題，めあて，ゴールとの出合わせ方），ゴールを自分で考える。めあては具体的にもたせる。 ・身近なことや話題性のあることを取り上げながら学びへの価値づけをしていく。児童の生活とつなげた学習課題を設定したり，解決したいと思える導入にしたりしていく。 ・既習事項との関連をもたせたり，環境を整えたりして，学びの方向性をもたせる。 ・ICTを活用し，様々な情報から的確に必要な情報を取り入れる力をつけさせる。 ・視覚支援を通して興味関心を高め，課題がとらえられるようにする。 ・キャリアパスポート「つけたい力」の中に「聞く態度」を入れ，気づきを促す取組とする。	「やってみたい。調べたい。こうしたい。こうやればできそうだ。などの思いをもって学習した」	90（90）	100（91）	89（92）	84（88）	A（A）	〇ブロックやおはじきを使って，活動的に学習に取り組むことができた。 〇ICT機器の活用により，興味関心をもち，より課題に取り組みやすくなっている。 〇学級の実態に合わせて，学習課題を考えることができた。 〇学校行事に向けて取り組む際に，いつまでに，だれが，何をしないといけないのかを確認することで，一人一人がやるべきことを具体的にイメージできるようにした。 〇単元で学習する内容とゴールのまとめ方を共有し，一人一人のペースで学習を進めることができる時間を多くもたせた。 △めあてが教師からの一方的なものになっていた。 △ICT機器の活用は進んだが，学力向上につながったと明確には言えない面もある。個人差が大きくなったようにも感じる。 △ICTを用いた情報収集能力は個人差が大きく，その都度ていねいに指導する必要がある。 △「・キャリアパスポート「つけたい力」の中に「聞く態度」を入れ，気づきを促す取組とする。」は取り組めていない　→　年度初めに「達成のための方策」を職員で共通理解する必要があった。	(学習面について) ・ICTの利用については、授業などを見させていただいてもよく使っていて感心している。また、AIで文章なども作れるようになっているが、児童に考察力が薄れていくのではなかと心配。 ・アナログな面とICTを使い分けて考えながら進めていくのは大変な作業だと感じる。 (生活面について) ・休日に遊んでいるときに上級生が下級生に呼び捨てを注意している場面を見た。普段の学校生活での意識が高まっていると感じた。 ・兄弟同士での呼び捨てについては、きちんと学校と家庭で使い分けをすればよいのでは。 ・友達関係については、誰とでも気軽に話ができる雰囲気があるとよい。年度初めに全体で、人とのかかわりについての話があるとよい。 (働き方改革面について) ・登校指導については、確かに遠くから来られる方は本当に大変だと思う。先生方も忙しくて大変。(学校としてはかなり頻度は減らしているが。)	・ICT活用についての研修を継続し、教員の活用技術を上げる。 ・ドリルパークの活用を進め、前学年の内容を1学期に終わらせる、１学期の内容を２学期に終わらせるなど課題を設定する。 ・キャリアパスポート「つけたい力」の中に「聞く態度」を入れる。年度初めに「達成のための方策」を職員に提示していただく。 ・基礎学力をつけるための教材を購入し、全校で視写教材や読解、作文などに取り組む。 ・ICT活用も大切でそれと並行しながら、現段階で久屋小の子どもたちにどんな力をつけなければいけないかを考える必要があると思う。 ・全校で共通して（そろえて）取り組むと良いことはないか検討する。（久屋小スタンダードのようなこと） ・学力ステップアップがんばり表の内容修正
	自分たちの暮らしをよりよくするための課題や手立てを見つける	②・学級・学校生活や自分の生き方にかかわる「気づき」の工夫（お知らせコーナー・帰りの会で振り返り・５，６年生や委員会からの提案・教師の価値づけからの新たな「気づき」・なりたい自分になるための作戦など），なりたい自分になるための具体的な取組を進める（宿泊体験など，具体的な場面の中で考え，取組につなげる。）。 ・できたこと，やろうとしたことに価値を付け，次への意欲を高める。 ・大きな行事で，どんな自分になりたいか，めあてをはっきりともたせる。 ・帰りの会だけでなく，授業中や給食中でも児童のよさや頑張りに気づき合えるようにする。 ・帰りの会の中に，「一日を通して気づいたこと」を取り入れる。	「学級や学校，自分のくらしをよりよくするための問題に気づくことができた」	80（80）	100（55）	85（78）	96（65）	A（C）	〇帰りの会で１日のふりかえりの時間を設定して、良かったことや頑張ったことを発表し合った。 〇係活動を活性化させ、学級の雰囲気を良くするようにした。 〇行事等で学年ごとのめあてを立てて、気持ちを一つにして取り組めるようにした。 〇行事等では具体的な目標をもって取り組むことができた。 〇第２回児童総会で、各学年の発表時間をもったことはよかった。 △学校全体として、廊下歩行や校舎内での過ごし方についての規範意識が高まると良い。 △帰りの会での振り返りでは、良いことではなく、悪かったことについて話題になることが多い。全体を見て考えることは低学年では難しく、個々に関する内容が多かった。 △帰りの会でふり返りの時間を設けることはできたが、ふり返りの視点が曖昧だった。 △自分がどうだったかのふり返りが中心で、「学級全体として」や「学校全体として」という視点が弱かった。		・課題がある場合、高学年や委員会など児童から問題提起をさせ、全校で意識化させる。（児童朝礼を毎月行う等、場を設定する） ・各行事や活動における、起案時点のめあてを児童向けの言葉で示し、児童がその行事でがんばることを意識化させる。それをもとに、児童のことばでめあてを設定させ、毎日の振り返りでできたかどうかをふり返る。 ・学年度の始めに、「くらしのきまり」も含め、全校で守っていきたい約束の確認をする。（大規模校と合併することを踏まえ、廊下歩行だけでなく右側歩行なども意識させたい。） ・給食の準備について。教室内で身支度を整えてから、廊下へ
（考え） 調べ，表現し解決のために行動する力の育成	自分の課題を自分の方法で追究する	③・既習事項との関連性など，根拠を明確に，自分の考えをもたせる。 ・「自分の考えを書きさき。伝えきる。」経験を積む。 ・図や絵，選択肢を活用したり，援助依頼の意識，態度を育成したりするなどの支援を通して，主体的な表現と思考を促す。 ・ICTを利用して他者参照を行ったり，ペアやグループを取り入れたりすることで，ポイントを明確にし，思考の焦点化と深化を図っていく。 ・経験を通して課題に取り組めるようにする。また，カードだけでなく，言葉で援助できるようにする。 ・単元計画を作成し、教師が主導する場面と自由震度学習を行う場面を設定する。 ・自分の考えをノートに図や絵なども使いながら，書く活動を広げていく。 ・自力解決，交流学級での活動を見守る。 ・思考が深まる「問い返し」をやってみる。	「自分なりの方法や考え方で学び，最後まで伝えきり，やりきることができた」	90（90）	82（73）	79（86）	88（92）	B（B）	〇学年に応じてICTを活用して、他者参照を行った。 〇学習の中でできるだけ自分の考えを持たせ、文章に書いたり全体の場で発表するような時間を設定した。それにより少しずつ自分の考えが伝えられるようになった。 〇全体発表の前にペアでの発表を取り入れ、自分の考えをたしかめ全体の場で安心して発表ができるようにした。 〇「どうしてそう思うの？」と理由を問い返し、考えの根拠を考えさせ、答えられるようにした。 〇自分の考えをノートなどに書いてから発表させることで、自分の考えを整理することができた。 △ねらいに沿って、ノートに書く場面とICTを使う場面を使い分けることができなかった。		・教材研究の時点で、ノートをどう使うか、ICTをどう活用するかを考える。 ・根拠を上げて自分の考えを述べる活動を継続する。「～だから、～だと思います。」「～から、～がわかります。」など、説明の型も示すとよい。 ・達成のための方策を年度初めに提示し、意識して取り組む。 ・自分の考えをノートに図や絵なども使いながら，書く活動を広げていく。 ・既習事項との関連性など、根拠を明確に、自分の考えをもたせる。
	学級・学校生活をよりよくするための意識を高める	④・学級活動や児童会活動などの中で，話し合う場と時間を定期的にもつ。 ・教師主導ではなく，児童の自己決定を大事にしたくらしを創る。 ・様々な行事での振り返りを通して，うまくいかないことから次を考える学びを大事にする。作戦を練り　直す。 ・声かけを通して活動や気持ちの切り替えを促す。一見守るようにする。 ・一人一人が大切にされる学級づくりに向け，話し方や言葉遣いなどを毎日振り返り，自己を見つめ直す。 ・「もっとなかよくなる」「もっと楽しくなる」など，テーマをもった係活動に取り組む。 ・具体的場面から，対応の仕方や適切な方法を考えるなどの取組を大事にする。 ・形ではなく，根拠を考える話し合い活動を大事にしたい。	「学級・学校の問題を解決する方法を考え，改善に向けた取組をしていた」	80（80）	100（64）	85（73）	88（71）	A（B）	〇児童総会の前に各学級で話し合い、意見をまとめることで全校で話し合いに参加することができた。 〇自分たちが取り組む行事や活動について、児童主体の話し合いの場をもち、自分たちで内容やめあてを決めさせた。 〇学活の時間や児童総会で、自分たちの生活の課題ついて考える時間をもつことができた。自分事として捉えられるように声掛けをしてきた。 △呼び捨てや廊下の歩行など、自分事として考えられるようにしたい。		・呼び捨て や廊下歩行について具体的な対策を児童の中から提案させる。 ・全体指導、学級指導、個別の指導を継続する。 ・課題があることについては今年度のように児童総会で話し合う。 ・4月に職員間で「くらしのきまり」をしっかり確認し、学級で指導する。 ・委員会活動の中で、児童の声として取り組む。
（みんなで創り出す） 人とつながり，協働しながら解決・創造していく意欲・態度の育成	協働的な学びの成果を実感し，次の学びにつなげる	⑤・互いの考えを交流させ，学びの広がりを保障する。そして，その取組を価値づける。 ・振り返りを大事にし，取組の成果・自分の成長を実感させる。 ・事前活動を工夫し，みんなで創ることに安心感をもたせる。 ・電子黒板などの有効活用を通して，みんなでつながる学びを活性させる。 ・みんなでまとめ，振り返るために，タイムマネジメントをていねいにする。 ・つながる学びの様子を可視化して，意識づけを図る。 ・学習を児童の生活と結びつけ，くらしを創ることにつなげる。 ・児童みんなの思いからめあてを創る。	「友だちとともに学びを深めることができた」	90（90）	100（82）	91（90）	96（92）	A（A）	〇電子黒板に児童全員の意見や考えを表示し、一人一人の意見や考えを共有し認め合えるようにした。 〇学級目標は児童の思いをもとに創ることができた。 〇電子黒板を活用して、学びの共有をしたり学びに向かう児童に安心感をもたせたりすることができた。 △より良い人間関係が築けるようにはしてきたが、「誰かが見ていなくても」、「大人がいなくても」正しい行動がとれる児童の育成を目指したい。原因や解決方法を考えて行く必要がある。		・発表ノートの活用、ペア、グループ活動を取り入れた授業を多く設定する。（他者の意見を聞く場を増やす。 ・意見交流の場を意図的に設定する。 ・一人一人の意見や考えを共有し認め合える学級づくりに努める。
	合意形成を図りながらよりよい学級・学校生活を創る	⑥・学級スローガンの振り返りを大事にして，成果，成長，課題を共有できる場を設け，次の活動につなげる。 ・係活動や生活目標，運動会や各種行事に向けた取組を自治的に進め，その成果や課題を全員で共有し，まとまりを強める。 ・ほかほか言葉など，よいことでみんなでつながり合う場を工夫する。その都度，価値をつけたり，言葉によるよいかかわりを意識させたりしていく。 ・みんなで「聞逃いから学ぶ」ような評価と指導を心がける（継続）。 ・交流学級のみんなとつながり合える場をしかける。 ・休み時間を利用して，みんなでともに過ごす場を意図的にしかけていく。 ・児童の判断やかかわりの面でうまくいったことを確認していく。	「学級や学校の問題を友達と一緒に解決し，その取組の成果を実感していた」	80（80）	100（45）	85（67）	100（76）	A（C）	〇委員会活動による異学年交流の場を設定した。（なかよし遊び等） 〇なかよしあそびが計画的に行われ、楽しく活動することができた。 △呼び捨てなど良くない言葉づかいで、コミュニケーションを取っている実態がある。 △学級目標の掲示はしているが、それを活用した振り返りをすることができなかった。		・どの教員も同じ意識で継続し続ける。児童からの提案を生かす。 ・全体指導、学級指導、個別の指導を継続する。 ・課題があることについては今年度のように児童総会で話し合う。 ・4月に職員間で「くらしのきまり」をしっかり確認し、学級で指導する。 ・引き続き、異学年交流の場を定期的に設定するとよい。 ・学級目標を活用した行事の目標づくりやふり返りを行うとよい。
いじめ防止に向けた取り組みの充実		⑦授業づくりと学級づくりの充実により，よりよい人間関係を築く。	「友達といっしょに楽しく仲良く勉強したり，学級を創ったりして，仲間をつくることができた」	90（90）	80（91）	94（92）	98（86）	B（A）	〇トラブルが起きた時に教員同士で情報を共有し素早く対応することで、児童が不満やストレスを残すことなく学校生活を送ることができた。 〇定期的に教職員間で児童のことを情報共有できた。 〇学級内だけでなく、異学年間のトラブルもすばやく対応できていた。 △より良い人間関係が築けるようにはしてきたが、大人がいないところで友達が嫌がることをしてしまう児童がいた。その原因や解決方法を考えて行く必要がある。		・児童アンケートを学期中に複数回行い、児童の実態を把握する。 ・教員と児童とのよりよい関係作り。 ・子どもたちが相談し合える人間関係を築けるようにする。 ・困ったときに教師に相談できる人間関係を築いておく。 ・トラブルが起きた際に、複数で素早く対応することを続ける。
学びの素地とした読書の充実		⑧図書館だよりや授業公開日などを利用しながら，家庭への啓発の工夫を図り，家庭と連携した読書習慣づくりを進める。	「読書にかかわる学校評価の数値が昨年度と比べ上がっている」	昨年度より アップ	91（91）	87（86）	52（51）	B（A）	〇家読に取り組んだことで、家庭を交えて読書への興味関心が高まった。 〇ブック委員会の様々な取り組みを通して、児童の読書をする機会が増えた。 〇図書館のイベントに楽しんで参加していた。 〇学級で読書マラソンに取り組むことで、お気に入りの本に出会うことができた。 △図書コーナーを作ってくださったが、それに気づき、本を手にする児童が少ないように思う。 △朝は図書館に本の借り換えに来る児童が多いが、それ以外の時間は図書館の利用が少ない。 △児童の選書が学年段階に合っておらず幼いような印象を受ける。		・朝の時間に図書館で過ごす時間を設定する。 ・ブック委員会や学校司書さんの企画に、全員で取り組む。 ・家読の継続と啓発。 ・完読賞の表彰を全校の前でやり、意欲を高める。 ・計画的に学校図書館を利用する。 ・ブック委員会の活動で子どもたちが本に触れる機会を増やす。
授業の質の向上とワークライフバランスを確立するための業務改善		⑨重点目標を視点とした業務の見直しと改善	「授業・学級経営に取り組みやすい」と実感できている教職員の割合が９割以上	90（90）	100（100）			A（A）	〇校務支援システムを活用して、成績処理などの事務的な作業が少なくなった。 〇空きコマを毎日１時間は確保できており、事務作業をする時間が取れている。 △２学期に大きな行事が集中したため、行事の分散に取り組む。 △職員が休憩をとることが難しい。休憩時間は１時間ではなく４５分間にして、勤務終了時刻を早めてほしい。 △業間や昼休みを短くして下校時刻を早め、放課後の教材研究等をする時間を増やしたい。 △委員会を月に１度にして、委員会・クラブがない日は下校を早くしてはどうか。 △下校時刻をさらに早くすることができる。また、毎週特定の曜日は全校５校時下校の日を設けるなどの取組も必要。 △校務分掌の偏りがある。 △PTA活動（研修、親子活動）の負担が大きい。実施方法の見直しの検討をするとよい。 △登校指導は朝が早くて大きな負担。 △各学年や各担当のデータをわかりやすく残しておくとよい。学年のファイル（社会、総合、校外学習等）があるとよい。		・生活時程の見直し。 ・年間行事予定の見直し。 ・休憩時間は１時間ではなく４５分間にして、勤務終了時刻を早める。 ・業間や昼休みを短くして下校時刻を早め、放課後の教材研究等をする時間を増やす。 ・委員会を月に１度にして、委員会・クラブがない日は下校を早くする。 ・各学年や各担当のデータをわかりやすく残しておくとよい。学年のファイル（社会、総合、校外学習等）をつくる。 ・PTAの親子活動は行事が午前中で終わる日などの午後に行うとよい。 ・各学年や各担当のデータを残しておくことを年度はじめと年度末に周知する。